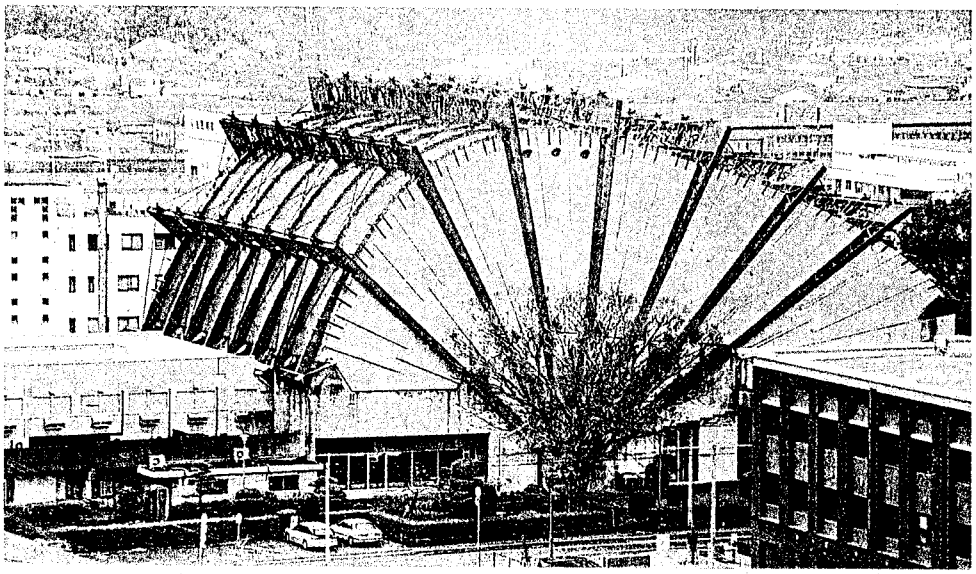
存廃論議呼ぶ都城市民会館



保存か解体かで議論が起こっている都城市民会館

国際組織が高い評価

日本建築家協会九州支部も 市長に保存要望書提出

保存か解体か論議を呼んでいる都城市民会館（同市八幡町）について、近代建築物の保存などに取り組む非政府国際組織DOCOMOMOジャパン（東京、鈴木博之代表）と日本建築家協会九州支部（福岡市、井上福男支部長）は相次いで、同市民会館は「日本のモダニズム（現代）建築を代表する建築物」として保存を求める要望書を長峯誠市長に提出した。長峯市長は「要望書も含め、広く市民の意見を聞き検討する」と答えた。

同市民会館は建築家菊竹清訓氏が設計し、一九六六年に開館。梁が屋根へ放射線状に突き出た奇抜なデザインで、建築界でも高い評価を得ている。同市は、今秋に十五カ所で開いた市民意見交換会や市民四千人に存廃を問いかけたアンケートはがきの回答結果などをもとに来年二月、最終決定する方針。

パリに本部を置くDOCOMOMOジャパンは要望書で、同市民会館は日本建築界を代表する建築家の一人である菊竹氏の設計で、同氏らが提唱したメタボリズム建築理論を具現化した貴重な建築物としている。

メタボリズム建築理論とは、生物が新陳代謝を繰り返しながら成長する仕組みを都市や建築の構想に取り入れようとするユニークな理論という。

要望書を提出したDOCOMOMOジャパン会員の建築家平川靖三（ぞう）さん（四五）＝都城市南鷹尾町＝は「保存か解体かの結論を性急に出すべきではない。まだ議論を続けるべきだ」と話した。

日本建築家協会九州支部も要望書で「同市民会館は文化向上の象徴的存在」としたうえで日本建築史の遺産として保存、活用するよう求めた。

同市民会館をめぐっては、市の存廃検討チームが昨年末、開館から四十年近くたち、老朽化が進んだことから解体を提言。これに対し、市民団体が今年五月、保存を求める約六千人分の署名を市議会に提出した。

「日本のモダニズム建築を代表」

宮

▽宮崎総局
☎0985
（〒880-08
▽都城支局
☎0986
（〒885-00
▽延岡支局
☎0982
（〒882-